



放射線診断科

初期臨床研修

放射線診断科における初期研修における研修目標は以下の通りである。
選択期間により可能な研修内容が異なるため1－2年次にこだわらず、下記のように分類する。
(なお諸般の事情により2ヶ月未満の研修は受け付けていない。また4ヶ月以上のコースは原則的には将来放射線科へ進むことを希望もしくは検討しているもののみ受け付ける。事前に下記研修担当までご連絡を。研修内容についても対応可能。)

I. 2ヶ月コース

- ・ 胸腹部と頭部CTの基本的読影力養成
 - 正常解剖を知り、病変の部位を解剖学的に記述できる
 - 一般的に用いられる撮像法とその特徴を理解する
 - 機器の特性を知り被曝や検査適応について説明できる
 - 撮像プロトコールと造影剤の使用法を説明できる
 - 造影検査について患者に説明し正しく同意をとることができる
 - 上記に基づき頻度の高い基本的疾患について読影できる
- ・ 胸部X線写真の基本
 - 正常X線写真を正常といえる
 - 基本的な異常所見の検出
 - 基本的で頻度の高い疾患について読影できる
- ・ 核医学
 - 一般的に施行されている核医学検査について、その特徴を知る
 - 一般的検査について基本的な読影ができる
- ・ 検査実施
 - CT
 - 造影剤注入機の操作を正しく行える
 - 適切な造影剤を適切な量、適切な速度で投与する
 - 適切にルート確保できる
 - 注射漏れや造影剤副作用などに対して適切に対処できる
 - MRI
 - 安全な検査実施について配慮できる(危険物を持ち込まないなど)
 - 核医学

適切な薬剤を適切な対象に正確に投与できる

- ・読影実務
シャウカステンの特徴や使用法を知り、適切に使用できる
PACS装置の特徴や使用法を知り、適切に使用できる
検査目的に応じて必要な画像を選び、所見を検出することが出来る
検出した所見をまとめて診断結果について討論することが出来る
- ・報告書作成
検出した所見や下した診断に基づき明確な報告書を作成できる

※超音波検査の研修については諸般の事情から継続困難となった。特に希望があれば、個別対応。

II. 4ヶ月コース

Iをベースに希望により IVR や特定領域の画像診断を深めるタームを月単位で設定する。意欲的な参加者については可能な限り学会発表の機会を用意する。

III. 6ヶ月コース

Iの内容のうち検査実施の項目を達成することを前提に、1タームを1ヶ月とし、IVR研修を含む6つのタームをローテする。これにより画像診断専門医としての基礎を偏りなく固める。可能な限り複数回の学会発表を行い、地域的な研究会はもとより、海外を含めた遠隔地で開催される学会へも参加させる。

ターム A：中枢神経・頭頸部

ターム B：胸・心大血管

ターム C：上腹部・消化管・小児

ターム D：泌尿生殖器・骨軟部

ターム E：防護他・乳腺・核医学

ターム F：IVR

IV. 8－11ヶ月コース

IIIに加えて、全身疾患、稀少疾患などについての理解を深める。
大学独自の先進的な医療にもふれ、今後の研修やキャリアを展望する。
その他希望に応じて研修プランを調整する。

後期研修

放射線診断科における後期研修(専門修練)における達成目標は以下の通りである。

専門修練の期間は前半2-3年、後半2-3年併せて4-5年とするが、その前半部分において日本医学放射線学会が定める「放射線科専門医」を取得可能な修練を、また後半部分において「放射線診断専門医」を取得可能な修練を実現できるようにする。詳細は日本医学放射線学会 HP<<http://www.radiology.jp/modules/senmoni/index.php?id=7>>を参照下さい。

放射線診断科教育・研修担当 藤本良太 Tel :075-751-3760
E-Mail:ryotaf@kuhp.kyoto-u.ac.jp